HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	道史編さん事業の概要と経過
Author(s)	立澤, 修一
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 13, 3-7
Issue Date	2024-03-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/91682
Type	bulletin (article)
Note	講演
File Information	REBN_13_003.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

地域経済経営ネットワーク研究センター年報　第13号
北海道大学　2024.3

＜講　演＞

道史編さん事業の概要と経過

立澤　修一
北海道総務部行政局文書課道史編さん室主幹

ただいま紹介いただきました道庁の立澤です。どうぞよろしくお願いいたします。

現職には昨年の4月から従事しております。「編さん事務の担当者から，話をしてほしい。」とのオーダーが主催者様からございまして，道庁の末端の管理職であります私がこのような形で登壇しております。大変，身に余ることと思っておりますが，貴重なこの機会に道史編さん事業の概要と経過についてお話しさせていただきます。

なお，個人的な意見を述べてしまうことがあるかもしれませんが，それは道の見解ではございませんので，あらかじめお断りしておきます。

まず，道史編さん事業の概要についてお話しさせていただきます。

スライドでは，道庁のホームページから紹介しております（**図1**）。一般の皆様から，「道史編さん事業とは何ですか」という問合せがあった場合には，このように答えることになります。

資料編2は，『北海道現代史』5巻のなかの資料編3冊のうちの1冊ということになります。

本日のシンポジウムではこの概要からもう少し掘り下げて，以下説明させていただきます。

道史編さん事業のはじまり

今から8年前，平成27年，4期目を迎えた高橋はるみ知事が，知事選の公約に掲げた政策に「次代に引き継ぐ歴史的資産プログラム」というものがございました。このうちの項目2，「北海道150年のマイルストーンづくり」に関連してこの北海道史の編さんということが検討の俎上にあがりました。

私事で恐縮なのですが，当時，私はこの150年に関する施策を検討していた部署と同じ部屋に席を置いておりまして，私の方はプログラムの三つ目「未来を託すグローバル人財育成プロ

道史編さん事業の概要

・道庁（道史編さん室）のホームページ

道史編さん事業の概要

道史編さん事業は、「北海道150年」の節目である平成30（2018）年度から、記念事業の一つとしてスタートしました。令和9(2027)年度までの10年間で、『北海道現代史』5巻（資料編3巻・通史編2巻）、『北海道クロニクル』2巻（上・下）、『北海道史年表』1巻を刊行する計画です。

編さんを担うのは、知事の附属機関である道史編さん委員会（小磯修二委員長）です。同委員会は、有識者・学識者からなる15名の委員で構成され、道史編さんに関する重要事項を検討します。

道史編さん委員会の下には、編さん実務を担当する5部会が設置されています。このうち「企画編集部会」（部会長：桑原真人編集長）は各部会の代表者からなり、道史全体の企画・編集・調整を行います。他の4部会は、刊行誌別及び分野別に編成された「概説部会」「政治・行政部会」「産業・経済部会」「社会・教育・文化部会」で、企画編集部会の方針に基づき、それぞれ編集及び調査を行います。なお、部会の下に、必要に応じて小部会が設置されており、現在5つの小部会が活動しています。

出典：https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/bsh/hokkaido-shi/hokkaido-shi/zigyou-no-gaiyou.html　1

図1

グラム」を検討していたという縁がございました。はた目で見ていて「ああ，大変そうだな」と思っていたのですが，その関連事業にこうして今，自分が携わっているのも何かの縁だと感じております。

余談的なことを述べましたが，道史編さんの開始について公式に表明されたのは平成28年6月の北海道議会の議論の中でした。道議会の会派である「自民党・道民会議」の所属議員の一般質問の中で，北海道150年を機に北海道史の編さんを進めるべきと質されております。これに関しまして，道は『新北海道史』というものを50年程度前に出しており，その後継の北海道史の編さんに取り組んでまいりますとの趣旨を知事が答弁し，北海道命名150年のこの節目（平成30年（2018年））に向けて検討が加速していくことになります。

道史編さん事業の概要

まず，編さん開始にあたりまして「道史編さん大綱」が知事決定されました。

編さんの目的といたしましては，「郷土の歴史に対する道民の理解と関心を深める。」また，「歴史的な資料を道民共有の貴重な財産として後世に伝え，本道の学術・文化の振興に寄与する。」この2点を柱にしております。

編さんの方針でも，「高度な学術研究の水準を保つこと」，「道民に親しまれるものとすること」，この両立を掲げているほか，「資料の提示に重点を置いた内容とする」という資料編の重視を打ち出しております。

大綱の策定に当たりましては，平成29年度，3度にわたり有識者懇談会を開催して検討するとともに，パブリックコメントで道民意見をいただいております。

有識者懇談会の議論につきましては，後ほど説明いたします。

ここでは，パブリックコメントで寄せられた意見について主なものを紹介いたします。

まず，道民の理解と関心を深めること，道民に親しまれるものとすること，（高度な学術研究の水準を保つことと）この両方を追い求めるのはなかなか難しいのではないかということで，（これらを）削除したらどうかといったご意見もありました。ただ，この事業は道費による事業であることを踏まえますと，これらも主要な目的であると考えられ，外すことはできないものでした。また，資料やデータ，写真を多くとの意見もいただきました。

組織体制

編さんを担うのは，知事の附属機関である道史編さん委員会です。この（スライドに示した）1グループで道史編さん委員会となっておりますが，有識者，学識者，一般公募も含め15名の委員が重要事項の審議に当たっています。

また，その下には，5つの部会が置かれて編さんの実務に当たっています。

資料編2を担当するのは産業・経済部会で，本日講演される板垣先生，満薗先生，市川先生にも調査研究委員として所属していただいております。

そして，事務局は道史編さん室，室長は，今は文書課長が兼務しておりますが，この道史編さん室長を筆頭として現在8名の体制となっています。

最初は，この（左の）写真のとおり赤れんが庁舎の中にあったのですが，現在は，本庁舎の5階（右の写真）にあります。看板が赤れんが仕様だったものですから，今ここにどんと大きな看板があり，若干浮いた感じにはなっています（**図2**）。

予算

グラフの下から始まっていますが（**図3**），平成29年度に「編さん大綱」検討に係る経費

など準備の経費が500万円ほど計上されました。編さんがスタートした平成30年度からは，概ね1,000万円前後の事業費となっております。下図の色の濃いグラフは資料編2が刊行された年度ですが，刊行が始まりますと印刷製本費が加わりまして，2,000万円余りの事業費となりました。

図2

なお，この（真ん中と右の）二つの表は道庁の『予算の概要』から取っています。このような形で平成29年度と平成30年度はいわゆる北海道150年に関連した道の重点施策ということで打ち出されたこともあり，予算書に事業の概要を載せていただいていますが，その後はあまり表に出ることはなく，淡々とストイックに事業が続いています。

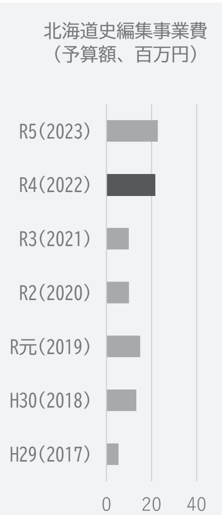
以上が内容で，ここからは編さんの経過となります。

資料編の構成検討の経過

当初の構想では，「道史編さん大綱（基本フレーム）」のところですが，知事が「後継の北海道史」と答弁したことからも分かりますとお

道史編さん事業の概要③

- 予算



道史編さん室作成

●北海道150年～財産の継承と新たな価値づくり～

事業名	概要	予算額(千円)
進 ○ 北海道150年事業費【総合政策部】	北海道150年事業基本方針に基づく具体的な事業計画の策定や、気運醸成を図るためのキックオフイベントなど民間企業と連携してPRに取り組むとともに、様々な主体が実施する「北海道みらい事業」を支援する。（＊「北海道みらい事業」の支援については地域づくり総合交付金を活用。上記の外数。）	19,505 （＊ 16,000）
進 ◎ 北海道のイメージアップ推進事業【総合政策部】	北海道150年を契機に、若年層や海外への発信力を高めるため、インターネットを積極的に活用し、戦略的道政広報の展開を図る。	10,000 ㉘（ 0）
進 ◎ 北海道史編集費【総務部】	北海道150年を迎える平成30年度から、新北海道史の後継史（現代史）を編さんするため、外部有識者からの意見聴取を行い、編さん方針及び刊行計画を作成する。	5,353 ㉘（ 0）
進 ◎ ふるさと映像資料等活用促進事業費【教育庁】	北海道150年事業などでの活用により、貴重な資料を次代へ継承するため、道立図書館が所蔵する北海道の歴史や文化を記録した映像のデジタル化を行う。	9,851 ㉘（ 0）
世界へ向けたアイヌ文化発信・象徴空間開設に向けた機運醸成（再掲）	民族共生象徴空間の整備を契機としたアイヌ文化復興の機運を高め、国内外へのアイヌ文化発信等を加速するため、「民族共生象徴空間交流促進官民応援ネットワーク」の運営や様々な機会を捉えた発信事業等を行う。	414,140
進 ◎ 民族共生象徴空間リンケージ事業費【環境生活部】	アイヌ文化復興等のナショナルセンターとして国が整備している「民族共生象徴空間」の2020年一般公開に向け、道内や東京、ハワイ州及び台湾において来場目標者数100万人を目指したプロモーションを行う。	42,236 ㉘（ 0）
アイヌ文化振興・研究推進機構事業費補助金【環境生活部】	アイヌ文化振興法に基づき国の指定を受け、アイヌ文化の保存・伝承に関する普及啓発等を行う（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構の事業に要する経費を補助する。	319,314 ㉘（ 317,780）
アイヌ協会活動促進費【環境生活部】	アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重される社会の実現を目指し、（公社）北海道アイヌ協会が行う東京オリ・パラ開会式等におけるアイヌ文化の発信に関する事業などの各種事業に要する経費を補助する。	39,544 ㉘（ 40,052）
アイヌ文化財保存対策費【教育庁】	アイヌ文化財の調査、記録、保存、活用、伝承活動の支援や理解を促進する取組を実施する。	13,046 ㉘（ 14,993）
◎ 歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業費（再掲）【環境生活部】	本道が有する観光資源である道立「開拓の村」について、小川家酪農畜舎の改修や馬車鉄道の延伸、多言語解説の充実などを行い、訪日外国人の関心が高い「歴史的まちなみ」を再整備する。	創 ※ 224,000 ㉘（ 0）
◎ 道立美術館活性化事業（再掲）【教育庁】	道立「三岸好太郎美術館」について、展示スペースの拡大、照明機能の改修等の展示機能強化を図るとともに、「アートギャラリー北海道」の策定、北海道150年関連事業の企画、プレイベントなどを実施する。	創 ※ 74,535 ㉘（ 0）
赤れんが庁舎改修事業費【総務部】	重要文化財としての価値を損なわない範囲で、地震時の安全性確保や利便性向上に向けた修復及び改修に向け、基本設計書を作成する。	23,920 ㉘（ 46,520）

上　：『平成２９年度　予算の概要（第一回定例会）』から抜粋
右　：『平成３０年度　予算の概要（第一回定例会）』から抜粋

●北海道150年事業の展開

事業名	概要	予算額(千円)
来 ○ 北海道150年事業費【総合政策部】	北海道命名150年の節目を祝い、式典などの記念セレモニーを開催するほか、本道の未来を担う子どもたちに学ぶ楽しさを伝えるためのイベント、ゆかりのある三重県・佐賀県との子ども交流などを実施する。	268,008 ㉙（ 19,505）
来 ◎ サイエンスフェスティバル開催経費負担金【総合政策部】	若者をはじめ道民のチャレンジャー精神を呼び起こし、世界を舞台に活躍する人材を育成・輩出するため、マサチューセッツ工科大学（MIT）教授を招へいし、聴衆参加型の講演会を実施する。	26,905 ㉙（ 0）
来 ◎ 北海道姉妹友好提携地域ラウンドテーブル2018開催事業費【総合政策部】	姉妹友好提携地域との親交を深め、効果的な北海道情報の発信など今後の国際戦略の推進につなげるため、各地域の代表らが集うラウンドテーブルミーティングを開催し、今後の発展ビジョン等について議論する。	25,477 ㉙（ 0）
北海道みらい事業	北海道150年に関連する道の取組として、北海道博物館における特別展「松浦武四郎」展や民俗芸能の振興・伝承を図る全道大会等を開催するほか、各種記念イベント等を実施する。（以下、主なものを掲載）	108,944
来 ○ 地域文化発信推進事業費【環境生活部】	北海道博物館において、「北海道」の名付け親である松浦武四郎の功績等を振り返る特別展「松浦武四郎」展等を開催する。	25,326 ㉙（ 8,560）
来 ◎ 日中経済協力会議開催費負担金（再掲）【経済部】	道内企業の中国市場への参入促進や輸出拡大に向け、ビジネスチャンスの創出や海外展開の機運醸成を図るため、日中の政府機関、経済団体、企業などが集うハイレベル会合を誘致する。	8,847 ㉙（ 0）
来 ◎ 宇宙へのチャレンジ推進事業費（再掲）【経済部】	宇宙分野を目指す人材の育成や科学技術への理解促進を図るため、高校生等を対象としたロケット製造工場見学等の課外授業や小中学生を対象とした宇宙をテーマとするイラスト募集、宇宙飛行士による講演会等を実施する。	3,396 ㉙（ 0）
来 ◎ ふるさと教材活用事業費（再掲）【教育庁】	本道の歴史や発展を支えた偉人に関する児童生徒の理解を深めるため、本道にゆかりのある人物を題材とした北海道版道徳教材「きた　ものがたり」を、道内の小学校5・6年生及び中学校1年生に配付する。	8,824 ㉙（ 0）
◎ ほっかいどう民俗芸能振興事業費（再掲）【教育庁】	地域に伝わる民俗芸能の振興・伝承を図るため、子どもたちが主体的に取り組む民俗芸能の活動を発表する全道大会を開催する。	2,700 ㉙（ 0）
◎ 全国知事会議費【総合政策部】	札幌市において開催される全国知事会議の場を活用し、プレイベントや意見交換会などの関連行事等の実施を通じて本道の魅力を全国に発信する。	12,000 ㉙（ 0）
来 ○ 地域づくり総合交付金（北海道150年事業分）【総合政策部】	北海道150年事業に関連し、道民や地域の視点を生かして様々な主体が企画・実施する「北海道みらい事業」を、地域づくり総合交付金により支援する。	50,000 ㉙（ 16,000）
関連推進施策	北海道150年の基本理念に沿った継続的な取組として、北海道史の編さんや赤れんが庁舎の改修、美術館等が相互に連携した本道の文化の発信力強化などの施策を推進する。（以下、主なものを掲載）	1,180,393
来 北海道史編集費【総務部】	新たな北海道史の編さんを行うため、編さん組織の設置・運営を行うとともに、編さんに必要な資料の調査・収集などを行う。	13,225 ㉙（ 5,353）
赤れんが庁舎改修事業費（再掲）【総務部】	赤れんが庁舎を適切に保存するとともに、歴史文化・観光情報の発信拠点として利活用を図り、北海道観光の呼び水とするため、改修に向けた実施設計や有効活用に向けた指針の策定を行う。	87,835 ㉙（ 23,920）
来 ○ 北海道未来人財応援事業費（再掲）【総合政策部】	本道の将来を担う人材の育成を図るため、若者の海外留学や、スポーツ指導者、芸術家、職人を目指して海外で資質向上に取り組む挑戦を、「ほっかいどう未来チャレンジ基金」等により支援する。	27,452 ㉙（ 20,814）
来 ◎ 歴史文化「体感」交流空間再生事業費（再掲）【環境生活部】	北海道百年記念事業の一環として整備した百年記念施設（北海道博物館、開拓の村、百年記念塔）を含む周辺地域を、歴史文化体感交流空間として再生するための構想を策定する。	5,701 ㉙（ 0）
来 ○ 民族共生象徴空間誘客促進・地域連携事業費（再掲）【環境生活部・経済部】	民族共生象徴空間の開設に向け、道内外の機運醸成や誘客促進を図るため、国内プロモーションや道内の地域連携体制の検討、海外での道産品PRと連携したアイヌ文化の発信強化などを行う。	創 430,580 ㉙（ 42,236）
来 ◎ 「アートギャラリー北海道」推進事業費（再掲）【教育庁】	道内の美術館等が所蔵する美術品等の価値を見つめ直し、その魅力の発信を強化するため、美術館等の連携による所蔵作品の相互紹介やイベント事業、PR活動を展開する。	37,374 ㉙（ 0）

1

図3

り，前の道史の続きである昭和45年以降を対象に，通史編1巻，資料編4巻の計5巻としておりました。

そうしたところ，これは事前に（この内容の）報道があったようなのですが，道内の歴史考古研究団体を中心として，対象とする時代を限定せずにやってほしいといった要望が寄せられました。これを踏まえた案として，昭和20年以降の現代を対象に通史編1巻，資料編は3～4巻，ほかに全時代を対象とした通史や年表を作る案も併記して，第1回の有識者懇談会に提示しました。

2か月後に開かれた第2回の有識者懇談会では，第1回の意見を踏まえ，第二次世界大戦以後を対象として通史編2巻，資料編3巻という案を提示し，おおむね有識者の委員の皆様の了解を得ました。

また，資料編3巻の構成については，このときからもう資料編2が産業・経済となっており，この検討案をベースに現在まで進んでいます。

大綱の成案では，「第2次世界大戦後を主たる対象」というように「主たる」を入れ，通史編は「1巻または2巻」という形で，ある程度この後の検討に含みを持たせています。

次に，産業・経済部会での検討ですが，編さん計画では資料編2が最初の刊行と決まったものですから，幾つかの重要な論点について先陣を切って検討していただきました。北海道大学名誉教授の坂下明彦部会長，北海学園大学名誉教授の奥田仁部会長代理をはじめとする産業・経済部会の委員の皆様に改めて感謝申し上げたいと思っております。

まず，時期について，いつからいつまで掲載するのかという議論がなされました。

委員の皆様からは，情報通信産業においては2000年で区切ると説明しづらい，ソフトウェア関係はほとんど入ってこない，戦後の電源の推移を見る場合，構造改革はこの辺を境に進展しているので，産業史の意味が半減してしまう，といった意見が出されました。

これについては，最終的には「道史編さん計画」におきまして，対象時期は第二次世界大戦後から2003年までと（目安としていた2000年から）3年延び，資料編への掲載資料は基本的にこの範囲内にとどめるとされました。ただし，区切りが困難な部分は通史編の叙述の中でフォローすることも，あわせて決まっております。

資料掲載の方向性の検討

こちらも委員からは，道民目線で言うと，資料ではなくグラフや表にしたほうが一目瞭然ではないか，満薗先生からは，資料編をわざわざ作るのだから，このような資料があるということを示すという意味でも一次資料から取ってくるべきではないかなど，また，資料編は通史を書くのに参考にすべきものが出ているものであるとか，戦後から一貫した統計データを載せることも大事ではないか，などの意見がありました。

これはまさに根幹の部分ですので，いろいろな意見が寄せられました。その結果，掲載の方向性について指針のようなものを示せないかということで，「実証性」と「希少性」の高いものを優先するというような議論も（各部会の代表者からなる）企画編集部会のほうでしていただきました。最終的には，（産業・経済）部会長の発言ですが，「それぞれの担当の知恵の範囲内で整理を進めていただく」，という形で資料編2はできています。

また，統計については通史編で取り上げるのがよいのではないかということで結論が出ております。

道史編さん室の作業を紹介

まず「リスト類の作成」というところで，膨大なものなのですが，新聞記事の見出しリス

ト，占領期の文書目録など作成させていただいています。

また，資料調査というところで，これがまさにメインだと思うのですが，調査先との折衝，日程調整，撮影などを行っており，トータル206件にのぼります。この資料調査は，ハマる人はハマる作業でして，これは編さん室の職員の話ですが，新婚旅行の最中に奥さんに，ちょっと1人で行動していいかと頼んで，何をするのかというと，その地域にある関連する資料を撮りに行ってきたと。本当に行ったのか分かりませんが，そういう逸話も残されております。

次に，筆耕・校正の作業ですが，撮影・複写した資料を道民の皆様が読みやすいように，旧字体を新字体に直すなどして翻刻をしています。あとは，権利者の方がいらっしゃいますので，掲載許諾手続を行うなど，どちらも大変気を遣う作業ですが，編さん室の担当者の尽力により，今のところ大きな問題はありません。

むすび

今回のシンポジウムのチラシをよく読むと，「道史編さん室の方からそもそも道史編さん事業とは何かをお話しいただく」との記載があります。これは大変重たい問いだなと受け止めております。

編さんの目的としては最初に示した二つになりますが，まさに二兎を追うような目的です。ただ，近年では「進めば二つ手に入る」という言葉もあります。委員の皆様には解説の工夫，資料の選び方など大変なお知恵とご苦労をいただいておりますことに，この場を借りて感謝申し上げる次第です。

その上で，道といたしましては，こういった「歴史的な資源」を「地域振興」や「観光」に結びつける施策もございます。しかしながら，この道史編さん事業というのは，知事の序文にもありますが「ふるさとの歴史を振り返ってその営みを学ぶ」ことが「挑戦し続ける力となり，北海道がさらなる飛躍を遂げる糧となる」とあります。大変ストイックですが，道民の皆様と歴史を学んでいくことが第1であると，考えております。

問いの答えになっているかどうか分かりませんが，これでお話を終わらせていただきます。まだまだ資料編2は紙媒体でも売っておりますので，ぜひお買い求めいただければと思います。

ご清聴，どうもありがとうございました。（拍手）

平本：立澤さん，どうもありがとうございました。

何のために北海道がこういう道史の編さんをしているのかという本質的なところについて，最後に非常に簡潔にお答えいただきました。ありがとうございます。